



平成26年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月14日

上場会社名 株式会社 鉄人化計画
 コード番号 2404 URL <http://www.tetsuiin.ne.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 健一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部担当 (氏名) 浦野 敏男
 四半期報告書提出予定日 平成26年1月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5726-8440

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年8月期第1四半期の連結業績(平成25年9月1日～平成25年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第1四半期	2,292	3.5	△212	—	△234	—	△179	—
25年8月期第1四半期	2,213	6.8	△182	—	△207	—	△149	—

(注) 包括利益 26年8月期第1四半期 △167百万円 (—%) 25年8月期第1四半期 △147百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第1四半期	△28.96	—
25年8月期第1四半期	△24.02	—

(注) 当社は、平成25年6月18日を効力発生日として、普通株式1株を200株の割合で分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第1四半期	10,594	—	1,492	—	14.1	—
25年8月期	11,070	—	1,706	—	15.4	—

(参考) 自己資本 26年8月期第1四半期 1,491百万円 25年8月期 1,706百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年8月期	—	1,500.00	—	7.50	—
26年8月期	—	—	—	—	—
26年8月期(予想)	—	7.50	—	7.50	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年6月18日を効力発生日として、普通株式1株を200株の割合で分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。平成25年8月期第2四半期末の配当金につきましては、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 平成26年8月期の連結業績予想(平成25年9月1日～平成26年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,388	9.3	186	2.5	129	△8.0	24	84.9	3.87
通期	10,500	5.0	507	46.5	413	40.9	100	139.0	16.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年8月期1Q	6,687,200 株	25年8月期	6,687,200 株
② 期末自己株式数	26年8月期1Q	476,600 株	25年8月期	476,600 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年8月期1Q	6,210,600 株	25年8月期1Q	6,207,163 株

(注)当社は、平成25年6月18日を効力発生日として、普通株式1株を200株の割合で分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	P. 7
四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、政府における各種経済政策への期待を背景に円高修正や株価上昇が進み、企業業績や雇用情勢の改善が一部にみられるなど、景気回復への期待感が高まりました。一方で海外景気に対する不安感や平成26年4月からの消費税率引上げを背景とした消費低迷などの懸念材料があり、引続き我が国の景気を下押しするリスクを抱えております。

このような経済環境の下、当社グループは主力事業であるカラオケルーム運営事業において、オリジナル楽曲の提供に集中的に経営資源を投入し、多様化したレジャー需要での消費者のニーズの取込みと当事業の市場規模が横ばいで推移する中での厳しい競合環境への対応を図るとともに、収益基盤の拡大を図るため新規出店を実施いたしました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高2,292百万円（前年同四半期比3.5%増）、経常損失234百万円（前年同四半期経常損失207百万円）、四半期純損失179百万円（前年同四半期四半期純損失149百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(カラオケルーム運営事業)

当社グループが主力事業を展開するカラオケルーム業界におきましては、2012年のカラオケ参加人口は約4,680万人（カラオケ白書2013）、その市場規模は3,912億円と推測されており、若干上向きの傾向がみられました。

このような状況の中、当事業におきましては、オリジナル楽曲の開発・提供を加速させ、従来からの鉄人システムによる50万曲を超える豊富な楽曲の提供に加え、当社独自分析により来店動機に寄与する音楽ジャンル（インディーズ、アニメ、ボーカロイド^{※1}、K-POP等）を追究し、当社のオリジナル楽曲として業界内における独自性と優位性を高めてまいりました。

出店面におきましては、2店舗の新規出店を実施いたしました。

営業面におきましては、顧客ニーズを掘下げたオリジナル楽曲の配信とこれらに関連するアーティストやキャラクターとのコラボレーション企画等のイベントを積極的に推進し、ファン層の取込みに努めました。

業績面におきましては、比較可能な既存店^{※2}の売上高が前年同四半期比94.8%となり、新店におけるイニシャルコストの負担や店舗電力料の高騰なども影響し、厳しい営業状況となりました。

なお、チョリンKOREA Inc.（当社の間接所有孫会社）が韓国カラオケ市場での試験的な取組みとして2013年9月末時点でカラオケ店1店舗（ソウル市江南区）を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は1,855百万円（前年同四半期比6.6%増）、セグメント損失（営業損失）は91百万円（前年同四半期セグメント損失（営業損失）55百万円）となりました。

※1 ボーカロイドはヤマハ株式会社の登録商標です。

※2 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

以下、同様であります。

(フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

喫茶店業界におきましては、2012年の市場規模は約1兆197億円（外食産業統計資料集）で前年比0.1%増と推測されており、個人消費が低迷し、デフレ傾向が続く中において堅調な推移となっております。

当事業におきましては、比較可能な既存店の売上高が前年同四半期比103.5%となり、業績は好調に推移いたしました。

営業面におきましては、9月から秋限定のメニューを提供し、12月からは冬限定のメニューの提供を予定しております。

なお、台湾における100%子会社（鐵人化計画(股)有限公司）が台湾・台中市において「咖蘭芙妮屋咖啡店（からふね屋珈琲店）」の店名でフルサービス型珈琲ショップ1店舗を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は192百万円（前年同四半期比18.7%増）、セグメント損失（営業損失）は2百万円（前年同四半期セグメント利益（営業利益）8百万円）となりました。

(C/P事業)

当事業におきましては、「カラオケの鉄人モバイル」（以下、「カラ鉄モバイル」という。）サイトを中心とした運営を行っております。会員数は効率的なサイト運営を図る目的で会員獲得コスト抑えた結果、微減となりましたが、当該コストの大幅な削減により収益は大幅に増加いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は116百万円（前年同四半期比15.9%減）、セグメント利益（営業利益）は40百万円（前年同四半期比136.5%増）となりました。

(その他)

その他の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、一時のダーツブームから需要が減少しており、低価格による競争激化と併せて依然厳しい経営環境が続いております。また、当第1四半期連結累計期間において1店舗を閉店したため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。

まんが喫茶(複合カフェ)運営事業におきましては、近年大型のアミューズメント設備(ビリヤード・ダーツ、カラオケルームなど)を併設する店舗が増加傾向にある中、当社グループは従来型のコミックとインターネット、オンラインゲーム等の個人向けコンテンツを中心としたサービスを提供しております。同事業の厳しい法令規制(個人IDの確認、ブース内の視認性確保など)や競合環境は年々厳しさを増している中、業績は微増いたしました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行ないました。

鐵人化計画(股)有限公司につきましては、決算月の関係で2013年7月から2013年9月の業績を当第1四半期連結累計期間として取込んでおります。なお、同社は2013年9月末時点で直営店として「日式レストラン」2店舗(台湾・台北市2店舗)、「フルサービス型珈琲ショップ」1店舗(台湾・台中市)を運営しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は272百万円(前年同四半期比6.8%減)、セグメント利益(営業利益)は3百万円(前年同四半期セグメント損失(営業損失)0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における、資産の合計は、10,594百万円となり、前連結会計年度末に比較して476百万円減少いたしました。

流動資産は、2,967百万円となり、同651百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が661百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、7,626百万円となり、同174百万円増加いたしました。主な要因は、カラオケ店舗の出店による有形固定資産及び差入保証金の増加などによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における、負債の合計は、9,101百万円となり、前連結会計年度末に比較して262百万円減少いたしました。主な要因は、長期・短期借入金の減少180百万円及び未払法人税等の減少59百万円などによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,492百万円となり、前連結会計年度末に比較して214百万円減少いたしました。主な要因は、利益剰余金が226百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当事業は、忘年会等が行われる時期を含む第2四半期と歓送迎会等が行われる時期を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、景況感の復調による消費者の安近短レジャー離れや平成26年4月に控えた消費税増税に伴う消費者マインドの変化などの懸念も存在する中で、当社グループと同業の競合店だけではなく娯楽・サービスを営む他業種との間においても顧客獲得競争の激化が予想されるなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

以上のことを踏まえた平成26年8月期の業績予想は以下のとおりです。

カラオケルーム運営事業におきましては、オリジナル楽曲の開発・提供を引続き加速させ、業界内における独自性と優位性を図ってまいります。出店面におきましては、収益性の高い地域に厳選した新規出店に取り組んでまいります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、引続き、京都河原町三条・本店におけるブランドイメージの構築に注力するとともに、からふね屋オリジナルスイーツの販売、更なる新メニューの開発などを進めてまいります。

C P事業におきましては、会員獲得コストの効率的な運用と効果的な負担による収益稼得を進めてまいります。

その他「まんが喫茶(複合カフェ)運営事業」並びに「ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業」におきましては、今後も店舗運営コストの生産性向上と市場動向を注視しながら、業績回復に向けた施策を検討してまいります。

なお、当社グループは、長期的な不採算店舗又は事業収益稼得上障害となる店舗については、営業フロアの縮小や店舗業態の変更、スクラップによる積極的な減損処理を行い、収益好転に努めてまいります。

また、海外事業においても、将来の収益性を検証し、今後の展開を検討してまいります。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、平成25年10月15日に公表いたしました平成26年8月期の通期の業績予想に変更はありません。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基き当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,661,258	1,999,276
受取手形及び売掛金	175,157	196,623
商品及び製品	21,574	14,833
仕掛品	6,287	3,740
原材料及び貯蔵品	124,074	130,518
その他	632,774	624,856
貸倒引当金	△2,006	△1,974
流動資産合計	3,619,120	2,967,875
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,032,522	3,148,870
工具、器具及び備品（純額）	335,501	336,519
その他（純額）	1,198,415	1,130,676
有形固定資産合計	4,566,438	4,616,066
無形固定資産		
のれん	170,357	152,300
借地権	133,892	133,892
その他	189,208	253,276
無形固定資産合計	493,459	539,469
投資その他の資産		
差入保証金	1,873,582	1,934,262
その他	542,790	560,893
貸倒引当金	△24,886	△24,506
投資その他の資産合計	2,391,487	2,470,649
固定資産合計	7,451,385	7,626,185
資産合計	11,070,505	10,594,060

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	260,721	238,136
短期借入金	108,260	83,320
1年内返済予定の長期借入金	2,582,606	2,525,445
1年内償還予定の社債	150,000	120,000
未払費用	590,951	590,988
未払法人税等	77,911	18,119
賞与引当金	6,356	6,154
ポイント引当金	15,350	15,684
その他	342,327	340,797
流動負債合計	4,134,484	3,938,645
固定負債		
社債	220,000	270,000
長期借入金	4,610,949	4,512,877
資産除去債務	28,262	26,006
その他	370,281	354,412
固定負債合計	5,229,492	5,163,295
負債合計	9,363,976	9,101,941
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,509	743,509
資本剰余金	736,667	736,667
利益剰余金	409,347	182,895
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	1,712,974	1,486,521
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	130	1,499
為替換算調整勘定	△6,952	3,722
その他の包括利益累計額合計	△6,821	5,222
新株予約権	200	200
少数株主持分	176	175
純資産合計	1,706,528	1,492,119
負債純資産合計	11,070,505	10,594,060

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
売上高	2,213,706	2,292,226
売上原価	2,079,186	2,151,024
売上総利益	134,519	141,202
販売費及び一般管理費	316,524	353,433
営業損失(△)	△182,005	△212,230
営業外収益		
受取利息	66	92
受取配当金	156	156
協賛金収入	10,359	10,359
設備賃貸料	1,165	1,015
為替差益	—	1,148
有価証券売却益	—	1,402
その他	7,902	6,241
営業外収益合計	19,649	20,414
営業外費用		
支払利息	29,534	28,791
社債発行費	—	1,909
支払手数料	14,751	9,249
その他	1,122	3,042
営業外費用合計	45,407	42,993
経常損失(△)	△207,763	△234,809
特別利益		
固定資産売却益	35	1,102
新株予約権戻入益	77	—
特別利益合計	113	1,102
特別損失		
固定資産売却損	—	18
固定資産除却損	1,849	454
特別損失合計	1,849	473
税金等調整前四半期純損失(△)	△209,499	△234,180
法人税、住民税及び事業税	17,267	12,831
法人税等調整額	△77,645	△67,138
法人税等合計	△60,378	△54,306
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△149,121	△179,873
少数株主損失(△)	—	△1
四半期純損失(△)	△149,121	△179,872

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成24年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成25年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△149,121	△179,873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	963	1,368
為替換算調整勘定	564	10,675
その他の包括利益合計	1,527	12,043
四半期包括利益	△147,593	△167,829
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△147,593	△167,828
少数株主に係る四半期包括利益	—	△0

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

当第1四半期連結累計期間（自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日）
該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当第1四半期連結累計期間（自 平成25年9月1日 至 平成25年11月30日）
該当事項はありません。